

2023年度 立命館慶祥高校 入試講評 国語(A)

2023年2月17日実施

大問	ねらい・出典	講評・学習の指針
一	<p>出典：古田徹也『いつもの言葉を哲学する』 説明的文章の読解。現代の日本では否定的なニュアンスで受けとめられる「批判」について、冒頭では元々は物事を批評して論ずるという中立的な意味合いも持っていたことを指摘している。さらに、「批判」が攻撃と捉えられがちな現状について背景を独自に考察し、「批判」の本質について、「炎上」など似た背景を持つ言葉を取り上げたとうえで掘り下げている。設問については、選択肢型・抜き出し型・記述型をバランスよく出題した。また、川添愛の文章の一節と内容を比べ読む出題によって分析的な読解力も問うた。</p>	<p>記述型の問題の対象になった内容については、問われている「理由」の核となる「中間領域がなくなること」から、「批判」の言葉がどのようなものになった結果、傍線部の「否定的なニュアンスを帯びる」ものになったかを説明する必要がある。該当の内容は全てまとまった部分から読み取ることができ、決して難しくはないが、必要な内容を順序立てて記述することが求められる。内容を比べ読む出題に関わる文章も含めて、長い文章を読み、どこにどのようなことが述べられているかを大づかみに捉えていくことが大切である。日頃の学習として、説明的文章を読んだ際に、文章内容を大まかに要約したり、文章内容の構成を図式的に整理したりする練習をして、文章の概要を理解する力を養っていくことを勧めたい。</p>
二	<p>出典：瀧羽麻子『博士の長靴』 文学的文章の読解。祖父母とひいおじいちゃんの家遊びに来た小学二年生の玲が、疎遠になっている母と祖父母の関係に子どもなりに気を遣いながら夕食をとる場面を出題した。ひいおじいちゃんが大らかに家族をサポートする魅力的な人物として描かれ、文章の終わりでは母と祖父母の関係が今後好転していくことが情景描写で暗示される。人物の会話や言動などから心情を読み取っているか、人物像を捉えているかを問うている。設問については、選択肢型を中心に、記述問題も出題した。</p>	<p>文学的文章については、登場人物に関わる出来事や状況、また登場人物の行動といった「事実」と、その事実が関わったり原因となったりして生じる「心情」を、それぞれ読み取ったり書き表したりできることが重要である。記述型の問題においては、その事実だけ、心情だけとなっている解答が目立った。本文の中で事実と心情を区別した上で、それをセットにして説明できることが大切である。特に心情については、それを表す直接的な語句が本文中にはない場合が多いので、自分で適切な言葉や表現を出してることが求められる。日頃の学習の中で、文学的文章を読む際に、ここで表れている心情はどのような言葉や表現で表すことができそうか考えたり、そのような言葉や表現を自分の中に蓄積していったりすることを勧めたい。</p>
三	<p>出典：姜尚中『それでも生きていく 不安社会を読み解く知のことば』 言語事項と作文の問題。言語事項としては、文法（品詞の識別）、熟語の構成、慣用的表現を出題した。作文は例年通り、設問条件に沿って、解答者が自分の経験や見たり聞いたりしたことを踏まえてまとめるものである。問いに合わせて、内容を要領よくまとめられているかという点を重視した。</p>	<p>言語事項に関する問題では、全体的に正答率が高い受験生が多く、このような知識事項をしっかり学習し、定着させることができている様子がうかがえた。作文の問題では、まず言葉遣いなど文の体裁を整えて書けることが必要であるが、その部分は多くの受験生が問題ない解答状況であった。また、今回の設問では「百害あって一利なし」が対象になったが、作文の題材に合う具体例になっているかどうか、書く前に吟味したり、書いた後に見直したりするような学習が大切である。</p>
全体	<p>例年通り、「論理的文章」「文学的文章」「言語事項と作文」を出題し、国語の語彙力・読解力・記述力を総合的に問う形式になっている。文章全体の構成に注意して要旨をつかむ力や、語彙力、選択肢を細部に注意して丁寧に吟味する力、さらに文章中の言葉を使って説明する記述力が必要な問題である。また、2つの文章を比べ読む出題では、情報をすばやく整理する力も重要である。</p>	<p>記述して答える問題について、解答（説明）として求められるのはどのような内容なのかを考えること、その内容を説明する文として適切な表記になっているかに注意することを大事にして、学習を進めてほしい。また、漢字や文法事項といった「ことば」に関する基本的な知識を蓄えていく学習も、読んだり書いたりといった学習活動と合わせて、進めていってほしい。長文読解のための集中力を養い、複数の文章について考えながら読む練習を積むとよいだろう。</p>

2023 年度 立命館慶祥高校 入試講評 数学(A)

2023 年 2 月 17 日実施

大問	ねらい・出典	講評・学習の指針
I	小問集合 [1]四則の混じった計算。 [2]根号を含む式の計算。 [3]単項式の乗法・除法。 [4]乗法公式を使った式の計算。 [5]連立方程式。 [6]2次方程式。	基本的な計算問題です。いずれもやや複雑な形をしていますが、落ち着いて丁寧に取り組みれば自ずと答えに辿り着きます。全体的にはよくできていましたが、[3][6]の正答率がやや低かったです。複雑な累乗を計算したり、2次方程式の解の公式を正しく用いたりする練習が必要です。
II	確率・データの活用の問題 1場合の数を求める問題。 [1](2)確率を求める問題。 [2](1)範囲を求める問題。 2平均値を求める問題。	[1] 与えられた条件を満たす球の取り出し方を求める問題です。考えられる組合せが 18 通りと少ないので、樹形図などを用いてすべて書き上げた方が効率的に解答できます。 [2] データの活用に関する問題です。用語の定義が分かっていたら容易に解答できます。(2)では「小数第 1 位まで求めること」という文章を読み飛ばして 88 と答えている人が非常に多かったです。
III	関数 $y=ax^2$ [1]直線の式を求める問題。 [2]2直線の交点の座標を求める問題。 [3]三角形の面積を求める問題。 [4]条件を満たす点の座標を求める問題。	放物線と直線に関する問題です。[1][2]は易しく、[3]は点 D を通り y 軸に平行な直線で△ADC を分割すると、[1][2]を用いて求めることができます。[4]はやや難しい問題です。△ADP の面積をどのようにして求めるかがポイントで、線分比が面積比と等しいことを利用すれば[3]を用いることができますが、正答率は低かったです。
IV	空間図形 [1]線分の長さを求める問題。 [2]四角錐の体積を求める問題。 [3]線分の長さを求める問題。 [4]立体の体積を求める問題。	空間図形の問題です。[1][2]は三平方の定理・錐体の体積公式に当てはめるだけであり、正答率は高かったです。[3]は△CEF を抜き出して平面図形の問題に帰着できるかがポイントです。数値が煩雑なので、根気強く上手に計算する必要があります。[4]はやや難しい問題です。力ずくで計算してもよいですが、対称性に着目して中点連結定理とその逆を使えば、立体 E-BDG の体積と一致することがわかります。
V	規則性 [1]規則性の問題。 [2]規則性と素因数分解の問題。 [3]条件を満たす数を文字を使って表す問題。 [4]条件を満たす数を求める問題。	規則性を見つける問題です。[1]はよくできていました。[2]は各因子を素因数分解してから積を計算すればよいのですが、素因数分解の意味自体を理解していない人が多かったです。[3]は[1]の一般化であり、[4]は[3]をうまく使えるかがポイントですが、[3]でつまずき、[4]に取り組みがなかった人が目立ちました。
全体	高校数学へのつながりが大きい確率・データの活用、関数、空間図形、規則性の内容。基礎的な知識をもとに、様々な知識を組み合わせることで解くことが必要な問題のほか、規則性を使って、思考力を問う問題も出題した。	高等学校で数学を学ぶには正確な計算力に加えて、さまざまな角度から事象を把握し、よりよい手段を選択する力が必要不可欠です。そのため、それらの力を兼ね備える素地があるかを確認するために基本から応用まで幅広く出題しました。全体を通して公式に当てはめるだけの問題はよくできていましたが、思考力を要する問題には課題が見られました。日頃の学習から地道に忍耐強く問題に取り組む力を養うことが求められます。

2023年度 立命館慶祥高校 入試講評 英語(A)

2023年2月17日実施

大問	ねらい・出典	講評・学習の指針
I	<p>文法問題〔自転車の安全運転について〕 ポスターとグラフを見ながらの高校生の対話。 基本的な語法・文法の活用力を問う。問題形式は、語順整序・語形変化。 〔語順整序〕①現在完了進行形 ③関係代名詞 ④比較級 〔語形変化〕②過去形 ⑤不定詞 ⑥分詞 ⑦動名詞</p>	<p>語順整序問題では、get+過去分詞の使い方にミスが多く見られた。また語順を変える際、グラフを見落として解答したものも多かった。語形変化問題は全体的によくできていたが、問題の指示とは違う形での解答もあった。 英文法の基本となる語彙・語法・構文の知識を理解し、更に定着・活用できるようにしたい。</p>
II	<p>対話文読解問題〔消滅の危機にある言語〕 高校生と留学生による対話。流れを理解し、適切な情報が読み取れているかどうかを問う。問題形式は、指示語・適文補充・英問英答・内容一致。</p>	<p>アイヌ語のあいさつをきっかけに、少数言語の話題が展開された。内容把握がよくできており、間違いそうな英問英答問題も大変よくできていた。 長めの文章から必要な情報を見つけ、的確に表現する能力を日頃から意識したい。</p>
III	<p>長文読解問題〔メタバース〕 主題と各段落の内容を的確に理解し、設問に答えることができるかどうかを問う。問題形式は、適語補充・内容把握（日本語説明）・図表完成・本文の内容一致。</p>	<p>ゲーム、メタバースといった中学生にとって身近な話題を取り上げた。身近であるがゆえに日本語説明の問題を自分の知識で答えてしまった解答もあった。 内容把握問題は、解答数が指示されていなかったため、適切な答えを選びきれなかった。</p>
IV	<p>英作文問題〔ボランティア活動〕 資料の情報を理解し、自分の意見を正しい英語で具体的に書くことができるかを問う。5文以上、かつ各文5語以上の英語で答える。</p>	<p>4つのボランティア活動から自分が興味のあるものを選び、具体的な内容と選んだ理由を書く問題であった。シンプルな文法が多用され、自分が選んだ活動に対して正しい文法を使って適切に答えている解答は少なかった。</p>
I (リスニング)	<p>リスニング問題〔短い対話文〕 対話の内容を理解し、最後の発話に続く応答を答える。</p>	<p>1回みの放送で情報を理解し、正解を選択する集中力と聴解力を問う問題である。よく聞きとれており、正答率も高かった。 リスニングによる状況把握力は言語活動において重要なため、確実に身につけたいスキルである。</p>
II (リスニング)	<p>リスニング問題〔文章・長めの対話文〕 文章や対話を聞き、その内容に関する質問の答えとして適切なものを選ぶ。</p>	<p>様々な場面での文章や対話を理解する問題であり、2回放送されるがスピードは速めである。コミュニケーション能力を向上させるためにも、今後多岐に渡るジャンルの英単語や英語表現を聞くことに慣れる必要がある。</p>
全体	<p>文法問題・読解問題・リスニング問題において、昨年同様、実用英語を意識し実生活に関わりのある身近なテーマを扱った。ポスターやグラフなど資料問題を出题することで、必要な情報を読み取る力や思考力・表現力を問うことをねらいとした。</p>	<p>身近にある素材やテーマを扱った問題を多く出題し、日頃からそのような話題やそれに関わる英語での表現に関心を持っているかを問った。また、英語4技能の理解・定着を計るため、文法問題・長文読解問題・リスニング問題に加えて、昨年に引き続き英作文の大問を設けた。文法知識だけではなく、実用的な英語を身につけ活用することを意識し学習して欲しい。</p>

2023年度 立命館慶祥高校 入試講評 理科(A)

2023年2月17日実施

大問	ねらい・出典	講評・学習の指針
I	小問集合 [1]タンパク質の消化。 [2]地震が発生した時刻。 [3]水蒸気をふくむ空気の種類と湿度の変化。 [4]無機物。 [5]ノーベル物理学賞。 [6]回路全体の抵抗の大きさ。	[1]の正答率が55.5%、[5]の正答率が30%でした。 [1]については、「タンパク質の消化酵素はペプシンであり、それは胃液に含まれている」と反射的に回答する傾向がみられました。問われているのは消化液Bです。 [5]の時事問題では普段から社会問題に関心をもってほしい。その他は正答率がおおよそ80%程度であり、概ねよくできていました。
II	力と仕事の大きさ、音 1おもりを引き上げる力がした仕事の大きさ。 (2)ばねばかりを引いた距離とばねばかりが示した値の関係を表すグラフ。 (3)おもりに対する浮力の大きさ。 (4)おもりの密度。 [2](1)音の速さ。 (2)音が同時に聞こえた回数。	1(2)は正答率が低い結果となりました。(1)は実験結果から仕事量を求める問題で、「動いていない物体への仕事量は0」を利用して解きます。(2)の動滑車への力と移動距離をグラフで表す問題では、「動滑車を使うと力が半分になる」「ばねばかりで測っているのは糸1本分に働く力の大きさである」の2つの理解が必要な問題でした。[1](3)の浮力の正答率は非常に高く、物体が水中にある場合の力の関係はよく理解できていました。学んできた知識をそのまま計算式に反映させずに力を図示したり、よく読解して物体の運動の様子を想像することでより物理現象への理解が深まるでしょう。
III	物質どうしの化学変化、電池 [1]環境に配慮している点。 [2]化学反応式。 [3]イオンになりやすい順。 [4]物質がもつエネルギー。 [5]電子の移動の向きと+極になる金属板。 [6]電池になる金属板の組み合わせ。	[1]は小さい実験器具で使用する薬品を減らすことが第一です。正解者は半数でした。[2]では化学反応式の書き方を間違っている受験生が少数いました。[3]のイオン化傾向を判定する問題でしたが正答率は高くよく理解できていました。しかし、[5][6]の電池に関する問題はやや正答率が下がり、イオン化傾向と電池の極の関係があまり理解できていないようでした。実験を行うときには、結果の善し悪しより、なぜ?こうしたら? ということを考えてほしいです。
IV	植物のはたらき 1二酸化炭素量が増えている理由。 (2)植物が行ったはたらき。 [2]実験終了時の二酸化炭素量の増減。 [3]弱い光を当てた時間。 [4]植物が呼吸によって分解するデンプンの質量。 [5]一定量のデンプンを得るために必要な日数。	植物が行う光合成と呼吸に関する問題でした。[1]~[3]は正答率が高く、光合成と呼吸の関係の理解と実験データの読み取る力がしっかりと身につけていました。しかし、[4][5]の計算問題は正答率が低く、実験データを数値的に取り扱う力が弱いようです。生物の問題は計算が少ない印象がありますが、生物の体のなかには化学反応や物理反応です。計算で現象を理解できるようにしましょう。
V	太陽のエネルギーと太陽の動き [1]光電池と光を受ける面積。 [2]1日における天体の見かけの動き。 [3]実験を開始した時刻。 [4]実験を終了したときの太陽の南中高度。 [5]夏至の日に太陽光発電を効率的に行う条件。 [6]地球の地軸が公転面に対して垂直の場合。	[1]では光の量と光電池の面積の関係を光の量を基準に面積を答えるという、混乱したかもしれません。[2]~[4]は正答率が高かったため、天球の基本を理解できていました。しかし[5]と[6]は、正答率が低かったです。[5]では、地軸の角度、緯度を作図して、冬至と夏至の太陽の垂直面の地面に対する角度を求めます。[6]は、「地球全体の」という言葉の意味をきちんと理解する必要があり、言葉からうける印象と思い込みだけで考えないようにしましょう。
全体	理科の基礎知識を問う問題や、問題文や図表から条件を読み取り、論理を組み立て考察する力をはかる問題を出题した。	問われていることは何で、答えなくてはならないことは何かを考えた上での記述、グラフの読み取りが十分出来ていない様です。どんな結果にもそうなった原因があり、それを考えるのが理科です。実験と観察、考察と議論を意識すると本当の力がついてきます。

2023 年度 立命館慶祥高校 入試講評 社会 (A)

2023 年 2 月 17 日実施

大問	ねらい・出典	講評・学習の指針
I	世界地図や日本地図を用いて、世界や日本の特徴を問う地理総合問題。国や都道府県といった地域ごとの産業を考えたり、資料を読み取ったりして答えを導く問題も含む。	例年通りの正答率だった。問いの文章を読んでいないことが失点につながっているということが散見された。世界地誌では身近な場所ではない国や地域のイメージが弱いように感じられた。日本地誌（地形図を含む）では、細かな知識の定着に至っておらず、得点率の低い問題があった。日々の繰り返しの演習が求められる。
II	長文を用いた歴史総合問題。古代から近現代まで幅広く扱い、内容が正確に理解できているかを観点としている。また、グラフや写真などの資料を用いた問題や、公民の融合問題も含む。	歴史分野では、漢字で解答する問題が一番低い得点率となった。高校入学後を見据え、中学校の教科書に太字で記載されている用語は漢字で解答できるよう練習してほしい。その他正答率の低かった問題は、朝鮮戦争に関する問題であった。朝鮮戦争は1953年に休戦協定が結ばれ現在に至り、終戦していない点を再確認してほしい。また、資料やグラフを見て論述する問題では、解答しなければならないことは何かを確認し、2つのことを対比させる際には、主語を明確にすることを気を付けてほしい。
III	2021～2022 年におこったできごとについての文章を用いた公民総合問題。知識を活用しながら資料を読み取って、答えを導き出す問題も含む。	教科書の知識・理解を含む問題については、非常によくできていた。一方で、教科書の知識を活用して解答する問題については、正答率が低くなる傾向にあった。教科書の知識だけではなく「1 万ドルが日本円換算では何円くらいなのか」「ウクライナ紛争に対するロシアの姿勢とはどういったものであるか」といった内容を感覚としてとらえられるように、社会に対する興味・関心を広く持つ態度を心掛けてほしい。
全体	学習して得た知識を生かして文章の意味や資料の特徴を読み取って考える問題を多く出題している。また、写真やグラフを用いて、思考力や判断力を問う問題を多く出題している。	知識問題は、全体を通して正答率が高かった。しかし、身につけた知識を文書に書き起こす問題や、正答のために問題文の読解が必要となる問題では、正答率が他の問題と比べ、下がる傾向にある。知識の習得はもちろんであるが、その問題では何を答えるべきか読み解く力を身につけるようにしてほしい。